

▼基本習得コース

到達目標	研修内容	必要な症例数	修了判定の評価基準
<b>1.救急処置</b> 【一般目標】 歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度及び技能を習得する 【行動目標】 ①バイタルサインを視察し、異常を評価する ②服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する ③全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する ④歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する ⑤一次救命処置を実践する ⑥二次救命処置の対処法を説明する	○当院で行われるミーティングへの参加 ○意識確認、脈拍の触診、血圧計や酸素飽和度測定器の使用法の習得 ○口頭試問 ○研修協力施設での見学実習	2症例 (指導歯科医による口頭試問)	口頭試問は指導歯科医が評価(5段階)を行い、目標達成の基準として、評価3以上を2例以上取得することが必要
<b>2.医療安全・感染予防</b> 【一般目標】 円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染代予防に関する知識、態度及び技能を習得する 【行動目標】 ①医療安全対策を説明する ②アクシデント及びインシデントを説明する ③医療過誤について説明する ④院内感染対策(Standard Precautionsを含む)を説明する ⑤院内感染対策を実践する	○当院で行われる医療安全管理委員会の行うミーティングへの参加 ○診療用器具の準備や整備、診察時や診療室入室前後の手指消毒の徹底	医療安全管理委員会の行うミーティングへの参加は必修	必須となっている医療安全管理委員会の行うミーティングへの参加により修了とする
<b>3.経過評価管理</b> 【一般目標】 自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。 【行動目標】 ①リコールシステムの重要性を説明する ②治療の結果を評価する ③予後を推測する	○齶抑制と管理：リスク判定、ブラッシング指導、フッ素塗布、予防填塞、生活指導、食生活指導 ○歯周病予防と管理：リスク判定、ブラークコントロール、予防スケーリング、メンテナンス、口臭予防 ○治療結果ならびに予後の判定 ○インフォームドコンセント、診療内容、診療方針、装置及び予後、偶発症、代用治療法、カウンセリングとモチベーション、コミュニケーション技法、患者・家族のニーズと心理的側面の把握など ○口頭試問	2症例 (指導歯科医による口頭試問)	口頭試問は指導歯科医が評価(5段階)を行い、目標達成の基準として、評価3以上を2例以上取得することが必要
<b>4.予防・治療技術</b> 【一般目標】 生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する 【行動目標】 ①専門的な分野の情報を収集する ②専門的な分野を体験する ③POS(Problem Oriented System)に基づいた医療を説明する ④EBM(Evidence Based Medicine)に基づいた医療を説明する	○高齢者に対する歯科治療 ○全身疾患を有する患者(易感染者を含む)に対する歯科治療 ○感染錠を有する患者への対応 ○POS(Problem Oriented System)に立脚した医療【情報収集、Problemリストの作成、治療方法と術式の選択肢の提示、治療計画の作成(一口腔単位としての治療計画の立案、再評価)】 ○症例の提示、要約 ○検査結果、治療結果の要約と記載 ○口頭試問	2症例 (指導歯科医による口頭試問)	口頭試問は指導歯科医が評価(5段階)を行い、目標達成の基準として、評価3以上を2例以上取得することが必要
<b>5.医療管理</b> 【一般目標】 適切な歯科医診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する 【行動目標】 ①歯科医療機関の経営管理を説明する ②常に、必要に応じた医療情報の収集を行う ③適切な放射線管理を実施する ④医療廃棄物を適切に処理する	○文献、インターネット検索、口頭試問 ○患者や医療従事者の被ばくに配慮し、放射線防護を実施 ○医療廃棄物を適切に分別し、感染性廃棄物を安全に取り扱うことが出来るよう、院内のルールを理解し実践	2症例 (指導歯科医による口頭試問)	口頭試問は指導歯科医が評価(5段階)を行い、目標達成の基準として、評価3以上を2例以上取得することが必要
<b>6.地域医療</b> 【一般目標】 歯科診療を適切に行うために、地域医療についての知識、態度及び技能を習得する 【行動目標】 ①地域歯科保健活動を説明する ②歯科訪問診療を説明する ③歯科訪問診療を体験する ④地域連携を説明する	○訪問診療への同行、見学、診察	50症例	目標達成基準として、50症例以上経験していることが必要